

多能禰呂タノメとよめる地なり末字多とは後に書紀廿八に、大伴連馬來田ウケノといふ人名を、廿九卷に
は望多ウメタと作り、宇麻具多ウマキタと唱し、こと知べし。

〔房總志料上總〕一望陀郡は六万石の地なりと、土地も廣く、民家いやしからず、美田他郡にまされ
り、

源平盛衰記に、望陀郡を望西東と別て、海邊倉浪木更津、万穀等の地を西とし、茅野、眞里谷、高谷、
泉、望陀邊を東とせるなるべし。

〔萬葉集二十〕天平勝寶七歲乙未二月、相替遣筑紫諸國防人等歌、多比己呂母、夜豆伎可佐禰氏、伊努禮等母、奈保波大佐牟志、伊母爾志阿良禰婆、

右一首望陀郡上丁玉作部國忍、

〔長門本平家物語十一〕兵衛佐殿は、使者を上總介千葉介方へ遣して、各急ぎ來らるべし、是程の大
事を引出しつ、此上は頼朝を世にあらせんとも、世にあらせじとも、兩人が心なり、廣常をば父
と頼常胤をば母と思ふべしと宣ひける、○中上總介廣常は、此次第を聞て、我遅く参りぬとおも
ひて、當國中、伊比南廳北廳南望、西望東、畔森ほり口、むさ、山邊の者ども、平家の方人として、強き輩
をば、押寄々々、是をうち取、隨ふ者をば相具して、一萬餘騎にて、下總の國府に參會す、

周准郡

〔郡名考〕上總 周准 スエ ス、

〔南總郡郷考〕郡郷

周准郡、萬葉集ニハ種泚ニ作ル、延喜式、和名抄ニハ周准ニ作ル、此郡東南ハ、天羽郡界ヨリ安房國
長狹郡界ニ至リ、北ハ望陀郡界ニ至リ、西ハ海ニ至ル、郷名山家山名村存ス、額田額田村存ス、三直三直村存ス、丸田丸田村存ス、湯坐湯坐村存ス、藤部藤部村存ス、勝部勝部村存ス、勝川勝川村存ス、

〔萬葉集二十〕天平勝寶七歲乙未二月、相替遣筑紫諸國防人等歌、